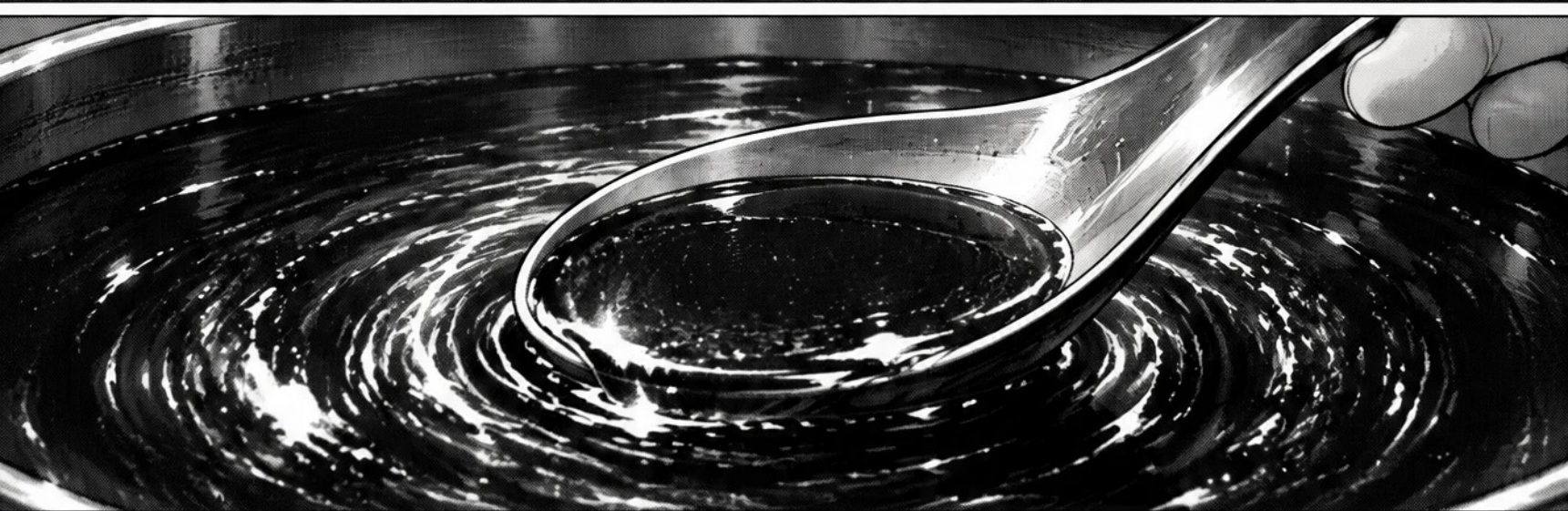




雨の降る夜、
父の店「松葉軒」は
最後の営業を迎えていた。



何かが足りない……。
お父さん、
どこが違うの？



よお花蓮ちゃん。
最後に一杯、
もらおうか。







燃えるような
香り……
まさか！



ノートには書かれて
いなかった、
父の無意識の癖。
父庵し庵。



父さんはいつも
余った生姜の皮を
焦がして、仕上げに
注いでいた！



この匂い……！
親父がいつも
漂わせていた
香りだ！



失われていた、
最後の一滴。



もう一口、
飲んでみて
ください！



ゴクッ



……っ！
これだ…
この奥深さ、
あいつの味だ!!

